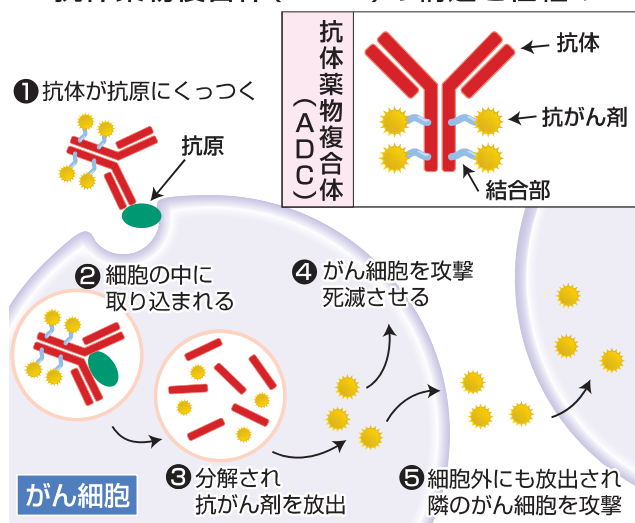


注目集める抗体製剤「ADC」

がん細胞内に直接薬剤届ける

抗体薬物複合体(ADC)の構造と仕組み



副作用に注意し投薬を

HER2という標的タンパク質(抗原)がある胃がんの方には抗HER2抗体製剤、CLDN18・2という抗原がある方には抗CL

DN18・2抗体製剤(ADC)が注目されています。ADCは、抗体に抗がん剤を結合した薬剤です。従来の抗がん剤と異なり、抗体部分が、がん細胞にある抗原を標的とし、抗がん剤をがん細胞内に直接届ける仕組みとなっています。また、抗原を持っていない隣り合ったがん細胞にも、薬剤が染み渡ることが知られています。標的を絞ることで、がん細胞に十分な量の抗がん剤を与えることができ、高い有効性を持つADCが現在多く存在します。

なお、がん細胞に標的を絞ることで副作用の軽減が期待されていましたが、副作用の強さ、種類については従来の抗がん剤とほぼ同様です。一部のADCでは、薬剤性肺炎、点滴中の吐き気のリスクが高いものも存在します。実際に投薬を受けられる方は、医療スタッフから説明を受けた副作用について十分に注意をいただくことで、より安全に効果が期待されます。

抗がん剤の種類の選択においては、患者さん一人一人のがん細胞の遺伝子異常やタンパク質などを検査し、患者さんごとに合ったものを選択する「個別化医療」が普及しつつあります。胃がんでは、HER2、CLDN18・2、PDL1、マイクロサテライト不安定性(MSI)といった、四つの検査が推奨されています。いずれも医療保険が適用され、抗がん剤治療実施施設であれば検査が受けられます。

HER2という標的タンパク質(抗原)がある胃がんの方には抗HER2抗体製剤、CLDN18・2という抗原がある方には抗CLDN18・2抗体製剤(ADC)が注目されています。ADCは、抗体に抗がん剤を結合した薬剤です。従来の抗がん剤と異なり、抗体部分が、がん細胞にある抗原を標的とし、抗がん剤をがん細胞内に直接届ける仕組みとなっています。また、抗原を持っていない隣り合ったがん細胞にも、薬剤が染み渡ることが知られています。標的を絞ることで、がん細胞に十分な量の抗がん剤を与えることができ、高い有効性を持つADCが現在多く存在します。

2020年時点でのがんの部位別罹患患者数、22年時点での死亡者数ともに第3位であり、依然として胃がん患者は多く存在します。胃がんの広がりにより治療方針は異なります。早期の場合、治すことを目標に内視鏡での切除や手術が行われます。一方、手術後に再発した場合や遠隔転移を伴う場合は抗がん剤を主軸とした治療が必要となります。

胃がんは日本を含む東アジアの方に多く発生するが



腫瘍内科医員 是石咲耶

からだを 読み解く

九州大病院別府病院の治療・研究

▶16◀